

大会を振り返って ～女子選手総括～

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

第8回アジア太平洋ろう者競技会 ～台湾・桃園～2015年10月1日～9日

競技力向上事業

豊田 恵子

2012年ソウル大会に続いて2度目の参加でした。前大会では女子ダブルスで銅メダル、混合ダブルスで金メダルを獲得しましたが、今大会では女子ダブルスでの銅メダルのみでした。

女子の参加国は台湾・インド・中国・イラン・日本の5か国で、台湾は去年のドレセ・マエレ杯で世界一になっている強豪国です。一矢報いることもできず、女子は全種目において台湾に敗北しました。敗因は、デフテニス女子のレベルが低いことが一番大きいと思います。

私自身は、ベストコンディションで挑まなければならない大事な時に、台湾の空気や食事に順応できなかったのか、移動手段であるバスに酔ったのか、試合期間中に気分が悪くなり3回嘔吐してしまい、その後、胃腸の調子まで悪くなり、ホテルの食事はほとんど食べられずトレーナーのアドバイスで水分を取ったり、本部からOS1を取り寄せてくださったり…そのおかげで、試合ができるまでに回復しました。棄権するという最悪の形は避けたかったので本当に感謝しています。これまで国際大会には4回出ていますが、体調をくずすのは初めてでしたし、国内でも滅多にないことでしたので油断していたのかもしれない。原因は結局不明なままですが、自己管理を怠ってチームにご迷惑をおかけしたことを反省しています。

今回の結果、女子は台湾が表彰台をほぼ独占しました。身体的な差は日本とあまり変わらないので、私達にできないはずはありません。ただ今回の私達女子選手は、テニスを始める時期が遅い(高校～20代)上に、全員が社会人で仕事と練習を両立しなければならない立場にいます。限られた練習時間で台湾、ひいては世界トップレベルに追いつくのは難しいと、国際大会に出るたびに思い知らされます。やはり、男子の梶下怜紀選手や親松直人選手のようにジュニア世代から聴者に交じって、テニスをしている女子がこれからの日本には必要だと思います。そのためにも、改めて選手の発掘、ジュニア育成が必要だと切に感じました。今後は、微力ですが私もそのお手伝いをしたいと思います。

最後に、これまでご指導ご鞭撻くださった斉藤監督はじめ梶下コーチ、献身的にサポートしてくださった佐野村トレーナー、尾形スタッフ、そして大会に関するあらゆる事務処理をこなしてくださった梶野事務局、日本から応援してくださったテニス仲間たち、職場の方々、友人たち、家族に心からお礼を申し上げます。有難うございました！

村山 奈留美

海外経験が乏しくまた初の国際試合のため、自分にとっては楽しみ半分不安も一杯でした。ですが、それ以上に大変貴重な経験をさせて頂きました。

◆公開練習

到着後、2・3日目は公開練習でした。短時間で台北での環境に慣れること、試合会場の雰囲気慣れること、そのコートの質に慣れることに集中しました。また試合中の相手の返球の種類を想定し、インドアでのコートはボールが滑るタイプだったのでより速いボールに慣れること、アウトドアでのコートはボールが弾むので打点が高い位置でのボール対応に慣れることに重点を置いて練習しました。今改めて振り返ってみると、こういう練習が大会の勝敗を分けたのかな、と思いました。

◆シングルス

1 回戦では、インドの方との対戦、クロスのアタックを決めていくタイプでした。フォアもバックも早い段階から決めるに行くタイプだったのですが、追いつけるスピードだったのでとにかく粘って拾い続け、チャンスがあれば決めるに行きました。それが相手にとっては嫌だったのかもしれませんが、deuce 状態が続き最終的に自分がポイントを取り 4-3 になったときに相手が棄権しました。相手の弱点を探しそこを徹底的に狙うだけでなく、相手の性格も見抜くことができればそこを攻める方法もあるんだ、イライラさせて相手をミスらせるという方法もあるんだ、ということがこの試合を通して改めて学びました。

2 回戦では、今回準優勝した台北の方との対戦、とても安定したプレーで隙を攻めていくタイプでした。最初は、4-1 でゲームを取り続けていたもののゲーム間の休憩時に相手がメディカルタイムを取得しました。通常より長く 3 分間の休憩の間、集中力が途切れないようにせねば、と休憩中も足だけは動かしたりしていました。ですが、その休憩の使い方がまずかったのが…その後の試合はボロボロでした。集中しているつもりが集中できなかった…と言ったら言い訳になってしまいますが…、これも相手の作戦の一つだったのかもしれませんが。立て直してもできないまま 2 セット目もストレート負けしてしまいました。最初に 4 ゲームも取れていたこと自体、どう取っていたのか今となっては覚えておらず、ただただどうして深いボールだけでなく浅いボールで返す等、他の戦略で攻めることができなかったのか、と悔しさで一杯になりました。休憩時間の使い方、メンタル面、そして冷静になって相手のコートを見てどう攻めていくか試合の組み立て方がまだまだ足りないということがわかりました。

◆女子ダブルス

豊田さんとのペアで試合に臨みました。作戦として、前にいるときはチャンスが来たらポーチに出る、後ろにいるときは守りながらもチャンスが来たらロブを上げて攻めていく、という方法でいきました。

1 回戦では、中国の方との対戦、過去に対戦経験のある豊田さんの情報を基に片方攻め続け決めるときにもう片方に攻めるという方法でいきました。立ち上がりが遅く、差をつけられていました。しかし途中で豊田さんから“このセットは捨てよう、いろんな戦略で攻めて慣れよう”と言われ、そこから開き直りいろんな戦略で攻め続けました。結果、点差を縮めていくことができ、1 セット目は 4-6 で負けたものの、2 セット目は 6-0 とストレートで勝ち取りました。そのままの勢いで 3 セット目へもっていきことができ、途中やり直しゲームがあつて少し戸惑いながらも結果 1 回戦勝ち取ることができました。早い段階で豊田さんの助言があつたお陰で自分が開き直ることができたことが勝利につながったと思います。

2 回戦では、台北の方との対戦でした。返球が速く、後衛のときはただ返すことに精一杯で豊田さんが決められるチャンスを作ってあげることができませんでした。また前衛にいるときもなかなかボレーを決めることができませんでした。全体的に相手のペースが速く、それに飲み込まれてしまい、自分たちのペースに持っていくことができませんでした。どうしたら自分のペースに持っていくことができるか、またペースを持っていかれた時の対処をどうするか、が今後の課題だと思いました。

◆ミックスダブルス

親松さんとのペアで試合に臨みました。作戦として、自分は後ろでとにかくボールを拾い相手のコートに入れること、そして彼が前でボレー等を決める、という方法でいきました。

1 回戦では、インドアで台北の方との対戦、どちらかというと女性のほうが技術のあるペアでした。インドアだったので、ボールのスピードが速かったのですが公開練習で慣れていたこともありすぐに対応することができ、親松さんがどんどん決めてくれたお陰で、結果 6-0・6-3 で勝つことができました。

2 回戦では、アウトドアで中国の方との対戦、男性はスピンを打つタイプのペアでした。そのため、打点が高くその対応が本当に大変でした。でも、公開練習をやったお陰かスピンによる打点が高いボールも含めてほとんどのボールを拾うことができ、これが相手へのプレッシャーにもなったと思います。

3 回戦では、アウトドアで台北の方との対戦、1 回戦と同様女性のほうが技術のあるペアでした。ただこの時は、シングルスでの 2 回戦で負けたことを引きつっていたのかもしれませんが…自分にとってはメンタル面で苦しかった試合でした。自分の中では切り替えたつもりでしたが体は思うように動けず、うまく返せない自分にイラ

イラしました。でも、そんな状況でも親松さんが具体的にどう動けばよいか、どう思えばよいか一つ一つのポイント毎にアドバイスをしてくれました。途中でトイレ休憩も使い、休憩時間の使い方もここで学ぶことができました。お陰で最後は集中することができ、親松さんにすごく助けられたお陰で、結果勝利を勝ち取ることができました。

決勝戦では、アウトドアで台北の方との対戦でした。この試合は今まで対戦したことがないタイプで、男女ともにとにかくボールは早くて深い、技術がすごかったです。全く守れずボールを返せないから親松さんが決められるチャンスを作ることができませんでした。本当に完敗でした。手も足も出ませんでした。これが世界なんだ…とすごく実感させられた試合でもありました。悔しい気持ちがありましたが、同時にこのペアとの試合ができたことがとてもうれしくもあり、本当に貴重な経験ができたとも思いました。

◆全体を振り返って

初の国際試合ではありましたが、公開練習ができたお陰で本番では緊張せずいつも通りの自分らしいプレーができたことがよかったと思います。また、自分のメンタルのなさを思い知らされた試合でもありましたが、休憩時間をうまく使う等で逆にそれを克服する方法も学ぶことができました。他、自分の技術で足りない部分を多く見つけることができました。残念ながら優勝することはできませんでしたが今回の結果に満足せず、見つけた多くの課題を基に、今後はそれも重点において練習を積み重ねていきます。そして、2年後のデフリンピックでは今回とは違いパワーアップした自分を世界に見せたいと思います。

◆最後に

家族をはじめ、会社の方やテニス関係者の多くの皆様の御声援・御協力頂いたお陰でここまで来ることができました。また、裏で様々な手配・サポートしてくださった梶野事務局や尾形スタッフ、強化候補指定選手に選ばれてから毎回の合宿で御指導頂いた梶下コーチや斉藤監督、毎回多くのテーピング対応頂いた佐野村先生、日本から情報を発信してくれた山本広報、国際大会経験のある選手からのアドバイスもたくさん頂いたお陰で試合に集中して臨むことができ、貴重な経験もすることができました。本当に…感謝しきれません。御支援頂きました皆様、本当に本当にありがとうございました。

山口 華恵

2015年10月1日～9日まで台湾・桃園で開催されたアジア太平洋ろう者競技大会(アジア大会)女子シングルス、女子ダブルス、ミックスダブルスの試合に出場しました。

開会式ではデフリンピック並に行われており、スケールが大きく素晴らしくとても感動しました。街角にある垂れ幕や広告があちこち見られ、大会にかける意気込みや思いがとても伝わってくるものでした。きちんと運営している様子が印象に残りました。

試合を振り返ってみて、初の国際大会でもある7月の世界選手権大会の時から手応えとしては納得のいくテニスをできたとは思えず、各国の選手達のレベルの差に愕然し、実際まだまだ技術不足や不安を感じながらのアジア大会挑戦でした。結果はシングルス、女子ダブルス初戦敗退、ミックスダブルス銅メダル獲得。今も言葉にできないほどの悔しさとやるせなさが込み上げており、勝てる要素はあるのに試合運びがうまくいかず、課題の多い試合となってしまいました。気持ちの切り換えを上手く使い、落ち着いて試合をコントロールすれば結果は違ったのではないかと悔いが残っています。ペアのパートナーの方に申し訳ない気持ちで一杯です。この敗北が、私のステップアップに必要なものだったと思えるよう、限られた時間を有効に使い、各国の急速なレベル向上に置いていかれないよう、練習やトレーニングなど励んでまた一から努力していきたいと思います。

選手だけではなくスタッフの皆さん一人一人にドラマがあり、胸を熱くさせられました。選手達が意志を強く持ってプレーしている姿を見て勇気を貰い、睡眠不足ながらも選手の為に最善策を考えたり色々と尽くしてくれたスタッフ達の行動に感謝し、チームが1つになったあの空気は絶対に忘れません。

色々と支えて下さった選手達、斎藤監督、梶下コーチ、佐野村先生、尾形スタッフ、見守って下さった梶野事務局、9日間本当にありがとうございました。

アジア大会に臨み、無事に試合を終えて帰国することができたのも周りのサポートのおかげです。皆様の暖かいご支援・ご協力・激励を下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に貴重な体験をありがとうございました。

大河内 香

今回、初めて国際大会に出場し、とても素晴らしい経験をさせていただきました。台湾に着き、会場に向かった時、初めての国際大会の雰囲気のにまれ、緊張するかと思いきや、逆に自分がこの大会に出場出来ることに對して喜びを感じました。1人1人の応援や御協力があって、ここに来られたことに感謝しながら、自分らしくプレー出来るように思いきり全力で楽しもうと思いました。

1日は半日かけて台湾に着き、2日と3日は練習日で台湾での気温やコートの特徴に悩まされながらも、一球一球に対して強く集中して練習しました。気持ち的に少しずつ感じていた緊張がほぐれ、とてもリラックスした感じで良いイメージで打てたように思います。

そして4日は、シングルスと女子ダブルス、混合ダブルスの三試合でした。

シングルス(0-6、2-6)はインド選手と対戦で、ラリー合戦となり、1セット目はほぼ全てのゲームの中でデュースが続きました。長いラリーが続き、苦しい展開から突破口を作れず、そのままセットを取られてしまいました。緊張することなく、相手と同等にラリーが出来たことはとても良かったが、粘りが足りなかったことと、プレーの中の引き出しが足りなかったことが大きな敗因だったと思います。

次に女子ダブルス(4-6、2-6)でインドのペアと対戦でしたが、これは気持ちとの戦いだったように思います。前日に立てておいた作戦がうまくハマり、0-4から3-4と追い上げることが出来ました。ここから！と思った時にはもう遅く、そのままセットを落としてしまいました。2セット目では2-0から相手が波に乗ってきてしまい、その流れを断ち切れず、そのまま取られてしまいました。お互いに焦りと動揺がプレーに出てしまい、このような結果が出てしまったことはとても悔しかったです。

最後に混合ダブルス(6-3、2-6、7-10 ※スーパータイブレークにより10P先取)は台湾ペアでした。インドアのコートに変わり、ウォーミングアップで一生懸命、速いボールに慣れるのに必死でした。それでも試合が始まるとパートナーとお互いにゲームの組み立てについて話し合い、1セット目はしっかりと取ることができました。一球一球を私が粘って拾い返し、返ってきたチャンスボールをパートナーが決め、また相手のミスを誘うなどとても良い流れで取ることができたと思います。2セット目から少しずつ相手に流れを持っていかれるようになり、ミスが増えてきました。スーパータイブレークになっても最後まで諦めない気持ちを持ってこちらの流れに持っていこうとしましたが、あと一步のところで叶いませんでした。

全体を通してみると、世界の選手に対して臆することなく全力で戦えたことはとても良かったと思います。私に大きく足りなかったものはなんだろうと振り返ってみたときに、試合の経験が足りなかったこと、プレー中の引き出しが足りなかったことだと感じました。細かい課題はたくさん見つかったので、しっかりと日本に持ち帰って練習し、また世界にリベンジしたいです。この数日間、悔し涙をたくさん流しましたが、このアジア大会で得たこの貴重な経験はとても大きく、自分自身の中で大きな成長に繋がったと思います。ここで終わりではなく、ここからがスタートだと思って一から頑張ります。最後になりますが、これまでカンパをしてくださった方々、家族、友人、私に関わるテニスメンバーたち、職場の関係者様、最後まで御声援していただき、本当にありがとうございました。

た。また、ここまで成長させて下さった日本ろう者テニス協会の役員の方々、梶下コーチ、佐野村先生に心より厚く御礼を申し上げます。

強化指定選手になってからの1年間大変お世話になりました。そして本当にありがとうございました。次の目標に向けて、今後も練習を積み重ね、大きくパワーアップした私を見せられるように見守っていただけると嬉しいです。